

2009 年度受託研究概要報告

但馬縮緬の小幅織機を活用した 新たなファッションマーケット向けテキスタイルの開発と提案

研究メンバー

戸矢崎満男 デザイン学部ファッションデザイン学科教授
伊藤藍 デザイン学部ファッションデザイン学科実習助手

委託者

株式会社 ICDA

研究概要

兵庫県豊岡市但東町商工会『但馬縮緬を活用したファッションマーケット向けのテキスタイル及び商品開発・販路開発事業』の一環として、株式会社 ICDA より受託し、ちりめん小幅織機を活用した新商品の開発を行った。背景としては、地場産業としての小幅織機による生産は希少性があるものの、海外製品流入などにより競争力を弱め、産地崩壊の危機に瀕する状況がある。豊岡市は、地域活性化に向けた取り組みを模索している。小幅織機を活かすために、絹ゆかた、ストール帯を対象品とし、ファッションマーケットの中で、若者に新しいキモノ文化を提案することを目的とした。開発にあたり、地場産業を活性化するためには、地域の特徴や魅力を商品化すること、そして学生の感性を促して、ファッションの付加価値を与える必要がある。学内の参加者を募集し、『但東町絹ゆかたプロジェクト』として現地見学や調査を行い、デザインを進めた。「絹ゆかた」は、すでに僅かに生産されているものの、一般的ではない。新しい浴衣として、絹の素材的な機能や色彩の美しさをアピールしつつ、浴衣としての魅力ある柄や生地素材の開発も行った。7か月の取り組みとしては、展示会を目標として、プロトタイプ制作までを目指した。

研究成果

開発にあたり現地調査をした後に、プロジェクトメンバーを募集し、現地へのバスツアーを実施した。学生が肌で感じた、「懐かしい田舎」や食文化、そして初めて見る家内産業の現場、またそこに住む人々の暖かさなど…。他に、近畿圏のショップなどにおける、現状の商品なども調査した。同時に、多くのキーワードを検討しながら、ファッションとして今なにが求められるか探求し、浴衣デザインのために3つのキーワードを設定。「モノクロモダン」「グラフィティ」「手書きナチュラル」の方向で、それぞれにイメージを追及している。そこから各自一つのイメージに絞り、リピー柄のデザインとして完成。

一部は京都の捺染工場に、他は本学のプリンター他設備を使用し染色している。したても全て本学内で行った。仕上がったメンバー8名分のプロトタイプとしての浴衣を、現地に赴き学生らがモデルとなって写真撮影を行った。撮影は本学内でも行ったが、その写真は但東町商工会が発行した商品カタログ [TANTO-LIFE] に使用された。目標としていた [JFW ジャパン・クリエーション 2009AW] (10月、会場：東京ビッグサイト) 及び、[JFW International Fashion Fair 2010] (1月、会場：東京ビッグサイト) にて浴衣及び生地を展示・発表している。



写真1 下絵デザインのミーティング (平成21年6月16日)



写真2 試作デザイン浴衣の撮影 (但東町)